

東濃信用金庫(多治見市本町)は、街中を彩るタイルの写真を募る「まちなかタイルフォトコンテスト」を催す。入賞作品は、タイル名称統一100周年を記念して同市美濃焼タイル振興協議会が制作する「タイル図鑑」に収録される。募集は5月31日まで。

多治見市は日本一のタイルの産地。タイルは化粧れんが、装飾れんがなどさまざまな呼ばれていたのが、1922年4月12日に名称がタイルへと統一された。同協議会は今年記念行事を企画。同金庫も同じく1月に100周年を迎えたことから、共同でコンテストを催すことにした。

街中を彩るタイル活写を

名称統一100周年、東濃信金がフォトコン

入賞作は図鑑収録



タイルの壁の前で作品投稿を呼び掛ける東濃信用金庫職員＝多治見市虎溪山町、とうしん学びの丘エール

図鑑は入賞作品ほかタイルの歴史や製造工程、内外装を紹介する。制作資金をクラウドファンディング(募金専用サイト「READYFOR」)で募り、9月に開くセラミックスバレー展で図鑑を公表する。入賞作品の所在地が分かる「タイルアートマップ」も作る。

写真の応募は、まず同金庫

公式インスタグラムをフォロー。普段目にするタイルの床や壁、装飾などを撮影し、「#タイルと百年」と付け、コメント欄に撮影場所と感想、思いつきを書いて投稿する。応募資格や数、撮影地区に制限はないが、誰でも見に行ける場所に限る。問い合わせはとうしん地域活力研究所、電話0572(25)1152。